

麦生小中学校

閉校事業実行委員会委員長
小向 喜志夫さん
地域の行事はすべて学校が中心だった。学校は地域の光。時代の流れをさみしく感じる。学校の最後をしっかりで見送りたい。

麦生小中PTA会長
向 悟さん
地域の交流の場だった学校。子どもたちにも深く記憶に刻んでほしい。閉校は新たな出発。無事に幕を下ろしてあげたい。

麦生中学生会長
本波 淳美さん(3年)
9年間、この学校で多くのことを学ぶことができました。この学校の生徒であることはわたしにとって大きな誇りです。

麦生小児童会長
森岩 遼くん(6年)
もっとここで勉強したかった。閉校になって残念です。6年間、勉強させてくれて、ぼくを育ててくれてありがとう。

想い



民家の一角。これが麦生小学校の生まれた時の姿でした。地域の学び舎が麦生地区で産声を上げたのは明治10年1月21日。当時の校名は南侍浜公立小学校といました。昭和22年、侍浜村立侍浜中学校麦生分校が創立。昭和29年11月に改称し、現在の麦生小中学校となりました。

民家から始まった130年の歩み 最後まで地域と学校は一体で

現在の児童生徒は9人。少子化などにより子どもの数は年々少なくなりましたが、ピーク時には約130人の子どもたちが学び、生活し、笑い声を響かせていました。学び舎が送り出した卒業生は1500人以上。この学校で学び育つことは自然なことでした。

正に地域に愛された学校。地域の人は学校への協力を惜みず、教師と一緒に子育てしました。また教師もこの地に住み、地域の人と深く心を通わせました。そんな麦生小中学校は3月20日、閉校を迎えます。

学校に「ありがとう」というために。今も地域と学校は気持ち一つに幕を下ろす準備を進めています。

近づく閉校 つのる想い—

見届けて 最後の姿を

今、2つの学校が歴史に幕を下ろそうとしています。学校の名は麦生小中学校と霜畑中学校。2校は地域と共に歴史を歩み、地域に愛されてきました。皆さんも感じてください。学校を愛した地域の想いを。そして見届けましょう。学校の最後の姿を。

霜畑中学校

閉校事業実行委員会委員長
嵯峨 力雄さん
学校は心のふるさとで元気の源。地域のまとまりの中心だった。校舎に60年の感謝を込め、みんなで思い出をかみ締めたい。

校舎を造り見守ってきた
芦久保 キミさん
校舎を造るため木を背負い運んだことを思い出す。愛着のある学校の閉校は涙が出るほど惜しい。学校へ長い間ありがとう。

生徒会長
南野 優くん(2年)
人数が少ない分、みんなで協力してきた学校生活。閉校はさみしいですが2年間、この学校で学べて本当によかったです。

17年間学校で用務員
川原 マエ子さん
思い出がいっぱい。わたしも家族も卒業したこの学校は家のような存在。なくなっても忘れることは決してありません。

想い



大人が木を切り、子どもが運び、地域の人たちが汗を流して造ったもの。それが霜畑中学校の校舎です。昭和22年4月1日、霜畑小学校校舎を間借りして開校した霜畑中学校は、昭和26年10月に新築移転。現在の校舎となりました。初めて見た人でも懐かしさを感じる校舎。それは古くとも設備はなくとも地域の心がこもっているからなのです。

開校してから62年。約1300人が同じ教室で学び、同じ校舎で卒業を迎えました。昭和40年代には1学年40人以上いた生徒も今では全校で25人。学び舎に響く生徒の声は徐々に少なくなってきましたが、校舎には数えきれない笑いと汗と涙が染み付いています。

地域が汗して造った校舎 送り出すのも地域の役目

みんなの思い出が詰まったアルバムのような校舎。みんなで造り、愛した校舎は閉校して姿かたちは無くなっても心から消えることはありません。

自分たちが造った校舎で自分の子どもや孫が学ぶ。地域は学校に協力的でした。学校に足を運び、教師と共に行事を行い、みんなで子どもを育ててきました。閉校まであと20日ほど。自分たちの学び舎を送り出すために、地域の心は最後まで一つのままです。

懐かしい写真や風景はありませんか

麦生小中学校
閉校記念式典を開催します

■期日 3月20日(金)
■時間 14時~
■会場 同校
■申し込み・問い合わせ先
麦生小中学校 (☎58-2323)

式 3月20日

典 3月21日

霜畑中学校
閉校記念式典を開催します

■期日 3月21日(土)
■時間 10時~
■会場 同校
■申し込み・問い合わせ先
霜畑中学校 (☎75-2002)

学校があなたの帰りを待っています

